



碧南ロータリークラブ週報

第2311回例会 平成18年4月19日(水)

●会長 岡田 超勇 ●幹事 亀山 裕一 ●SAA 長田 豊治

■例会日 毎週水曜日 12:30 ■例会場 碧南商工会議所ホール

■事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>

E-mail:info@hekinan-rc.jp

■会報委員 杉浦昌裕・角谷信二・清澤聰之・岡本明弘

超我の奉仕

2005~2006年度
国際ロータリーのテーマ



● 齊唱

ロータリーソング 「今日も楽し」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

高浜RC 深谷幸則君



植松 敏樹副会長

副会長挨拶

今日は、前回に続きまして私が趣味にしています「お能」の話をさせて頂きます。

この前は、謡曲を歌うことによって陶酔することができるのが魅力であると言いましたが、これは自分が演じたり、歌ったりする方の立場からの面白さですが、今日は、お能を鑑賞する(見る)方の側からの魅力を話させて頂きます。

お能をテレビなどで見られたことがあるとおもいますが、役者がなにを言っているのかよく分からぬとか、舞を見ても同じ仕草の繰り返しで眠たくなるとおっしゃる方が多いのですが、これは尤もなことで、お能は古語の候文で書かれているので、現代語に訳さないと話の内容が分からぬので眠くなるのも当然です。だからもし、お能を見るような場合は、前もってあらすじを見ておくと、ああこういうことをいま役者が言っているのだなと分かり面白さも増してきます。

お能の物語は、夢幻能と現在能とに大きく分けられます。現在能は主人公(シテ)が現実世界の人物で、人間の劇的な心情を題材として作られている現実劇ですが、あまり多くはなく、お能というと幽玄な夢幻能が一般的なものです。この夢幻能は現実世界を超えた、亡靈、神、鬼などがシテとなっている靈界の話が多いのが特徴です。物語は前場と後場に分かれています、前場でワキの旅僧がゆかりの土地を訪れた所へ主人公(前シテ)が化粧の姿で現れ、後場になって本来の姿(本体)で登場して思い出を語り、舞を舞うという構成されています。この夢幻能の様式は世阿弥が確立したものです。

お能の舞台表現としては逆説的ですが喜怒哀楽を表すときおもてに出さないで、表現しようとするほど内にこもり動きがなくなります。たとえば、普通は可笑しいこと、悲しいことを表現する場合は笑ったり、泣いたりしますが、お能の場合は無駄な動きをそぎ落とし、最も基本的な動きだけを観客に伝えようとします。その究極として座して動かずにいるとき、演者の内面的な演技の真髄が發揮されることになります。そういう無駄のない動きの中に観客は、隠されたメッセージや心の叫びを読み取り、本当のお能の真髄にふれ感動することになる。

たとえば、源氏物語を題材にした「葵の上」では、光源氏を寝取られた愛人六条御息女が嫉妬で怒り狂って、生靈となって光源氏の正室「葵の上」に見立てた舞台に置かれた小袖をめった打ちするという表現の型は、2回ほど杖で打つ仕草だけで表わすだけですが、演者の内面では怒り

狂ったことが観客の想像力に訴え、深い感動を与えるものでなければなりません。

日本の伝統芸能には本当にすばらしいものがあります。特にお能は平安時代の後期より650年も続いている古典芸能であり、2001年にはユネスコ世界遺産に指定され世界的にも現代最古の舞台芸術として注目されるようになりました。

ゆったりとした空間の中で、人間の持つ感情、悲しみ、怒り、喜びなどを独特の型で表現するお能の魅力を是非皆様も味わって頂きたいとおもいます。

幹事報告

- ・他クラブの例会変更等のお知らせはありません。
- ・去る13日葵CCに於いて3クラブゴルフ大会が開催され、今回RCが当番クラブでしたので今年度会長、幹事共にゴルフはしませんが表彰式に出席してきました。ゴルフ幹事さんご苦労さまでした。
- ・一昨日の17日にキャッスルプラザで国際博委員会最終報告会が開催され別紙の通りの決算報告でした。



亀山 裕一幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 77名 (内出席免除者 14名) 出席者 58名	
出席対象者 51／63名	出席率 80.95%
欠席者19名(病欠者0名)	前々回修正出席率 100%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

- 杉浦 健次君 4月16日の地区協議会並びに懇親会に多数の皆さんにご参加をいただきありがとうございます。
石川 春久君 どうございます。いよいよ次年度が始まりました。よろしくご指導ご協力をお願いします。
- 原田 達八君 西端地区正幹事を任命されました。
鈴木 敏弘君 岡崎信用金庫さんの4月の月報で、当社を紹介して戴きました。
杉浦 昌裕君 本日、碧南市民相談員の辞令を受けました。森田英治様よろしくお願ひします。
山中 寛紀君 先日地区協議会所用有り欠席し、失礼致しました。
堀田 益隆君 本日、卓話をさせて頂きます。よろしくお願ひします。

〈ロータリー財団委員会〉 井上達夫委員長

- ・ロータリー財団の動き（ロータリーの友4月号）R財団「未来の夢計画」（未来の夢委員会）
 - ・プログラムを保健、教育、環境、世界平和の四つの分野に統合
 - ・R財団の簡素化
 - ・「メガプログラム」の実施
- 2006年7月から始めて、2007年6月末までに全面的に実施 の予定世界のポリオ状況（ロータリーの友4月号、ロータリーワールド2006年4月号）

2006年2月1日
エジプトとニジェールでは、12ヶ月ポリオの発生が0件だった。まだ、アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタンの四ヶ国では0件でない。

卓話

「長崎よかとこ」

会員 堀田益隆君

=はじめに=

長崎市は、元亀2（1571）年のポルトガル船入港を機に、海外との交流によって栄え、文化・

産業・経済などの面で他に類を見ない国際色豊かな文化都市として、国内有数の観光都市の顔を持っています。

また、市街地の7割が斜面地という「坂のまち」であることも特徴のひとつです。現在、「坂のまち」をよりよい生活環境とするため、官民一緒になって、斜面市街地再整備事業に取り組まれています。

長崎では昭和20（1945）年8月9日、広島に次ぐ世界で2発目の原子弹が落とされ、街は廃墟と化し、死傷者は15万人にも達しました。それから半世紀が経過し、長崎市は見事に復興を遂げ、地方の時代にふさわしい新たな都市づくりが進められています。



=長崎市の沿革、観光=

沿　　革

長崎の地名は、この地が長い岬状の地形をしていていたことから起こったといわれている。我が国の西の果ての山間に位置する長崎の発展の歴史は、元亀元年（1570年）ポルトガルの宣教師メルシオール・デ・フィゲレンドによって良港であることが発見され、翌年、領主大村純忠によって開港されたときに始まる。

その後長崎は、キリスト教の布教の根拠地となつたため、当時ルネッサンス期を迎えたヨーロッパの各種の文化が流入し、いわゆる南蛮文化は長崎に重要な影響を与えたが、さらに豊臣氏、徳川氏がこの地を直轄領として定めたこと、また1639年以降の鎖国により、西欧文化導入の唯一の門戸となつたことで、その後200数十年にわたり独占的な繁栄をきわめた。しかし、安政の開国とともにその地位を失い、古い港町から近代都市としての発展を遂げるために苦しい道程をたどらなければならなかつたが、近代的産業都市への転換はまず造船工業を基点として始められ、中国大陸及び東南アジアに臨む地理的優位性から、貿易港として新しい発展の道が見出されたことや、大正から昭和初期にかけて漁業基地としての地位を確立したことなどにより、次第に産業都市として近代的躍進を遂げはじめた。

第二次世界大戦の末期の昭和20年8月9日、一発の原子爆弾は、7万余の尊い生命を奪い市北部一帯が廃墟と化したが、その苦難の中から立ち上がり、造船業、水産業とも戦前の水準をはるかに上回って、古い西欧文化の影響を受けた本市独特の歴史的文化遺産と、美しい自然に恵まれた都市観光として国内外において大きく脚光を浴びるにいたつた。

しかし、昭和48年のオイルショック以降、構造的な造船不況、あるいは200カイリ問題等による水産業の不振や観光客の減少などにより、本市経済が低迷しているなかで、昭和57年7月23日、未曾有の集中豪雨により262人の死者・行方不明者を出し、被害総額2,119億円を超える大惨禍を受けた。しかし、市民の努力と国内外からの援助により目覚ましい復興を果たし、さらに、このような被害を二度と繰り返すことのないよう、市民と行政が一体となり恒久的な防災都市建設に向けて取り組んでいるところである。

近年は、西九州の中核都市、あるいは原爆被爆都市という特殊性から、核兵器の廃絶による世界平和を希求する平和推進都市、また、造船業を軸とした工業、水産業、観光を基幹産業とする近代的な商工都市としての躍進を目指している。

觀　　光

長崎市は、元亀2年（1571年）の開港以来、ポルトガル・オランダ・中国など海外との交流の中で多種多様な文化や伝統を生み出し発展してきた都市で、歴史の街、ロマンの街として親しまれている。

市内には、グラバー園などの洋館群をはじめ数々の国際性豊かな文化遺産が散在し、また長崎

の特色である港を取り組む斜面市街地は美しい景観を醸し出し、個性ある観光的魅力を形成している。

このような観光資源を持っている長崎市において観光は、水産業や造船業と並ぶ重要産業の一つとなっており、毎年多くの観光客が訪れている。

しかし、最近の長崎市を訪れた観光客数は、長崎「旅」博覧会が開催された平成2年の「約628万6,500人」をピークに減少し、平成15年は、「503万7,500人」で昨年より5,700人減となった。

その要因として、東京ディズニーランドやユニバーサルスタジオジャパンなどの大型テーマパークや東京などの大都市圏、また、近年の温泉ブームによる温泉地などの人気が考えられる。

内訳別で見ると、宿泊客数においては、全国高等学校総合体育大会「長崎ゆめ総体」が開催されたことにより、平成15年は増加したものの、以前としてきびしい状況が続いている。その要因として、高速道の発展による日帰り圏内の拡大などが考えられる。

また、旅行形態においても団体旅行から家族や友人などの個人旅行へ変化している。

さらに、修学旅行においては、少子化による児童数が減少している中、海外への修学旅行の増加やマリンスポーツ、平和学習などができる沖縄への増加などにより大きく減少している。

このような中、長崎市においては、周辺の6町と連携して、地域の伝統や自然などを活用した72の広域体験学習プログラムを設定し、修学旅行などの誘致に取り組んでいる。

また、女神大橋などをはじめとする大型施設が完成する2006年に向け、ひと活かし、まち活かしを基本理念に、新たな国際観光都市長崎の実現のため、「観光2006 アクションプラン」を策定し、多くの観光客に訪れていただけるように様々な事業に取り組んでいる。

特に、2006年4月から10月まで「長崎さるく博'06」というまち歩きを中心とした一大イベントを開催することとしており、その成功に向け、2004年、2005年にはプレイベントを実施する。

次回例会案内 平成18年5月10日（水）
「クラブフォーラム」地区協議会の報告